

国 語

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
国語表現	2単位	農業科（畜産科）	2年

教 科 書	国語表現（大修館書店）	副 教 材	リアルマスター3300（尚文）
-------	-------------	-------	-----------------

科目の目標	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 言葉と出会う 言葉と表記 整った文を書く 相手に応じた言葉遣い わかりやすい文を書く 身近な言葉を見つめよう 表現の扉1	・目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して効果的に話したり書いたりする。
2 学 期	2 伝える、伝え合う 言葉のストレッチ体操 絵や写真を見て書く マイニュース記事を書こう 伝え合いのヒント 表現の扉2	・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の基礎を学び、言葉で伝えること、伝え合うことを実践する。
3 学 期	3 小論文・レポート入門 小論文とは何か 反論を想定して書く 文章を読み取って書く 統計資料を読み取って書く 自己を見つめる 表現の扉3	・自分の考えを的確に伝えるために、書き方によって説得力に大きな違いがあることを認識し、的確に表現する力を身に付ける。
備 考 (学習のポイント)	1 知らない言葉はすぐに辞書を引いて調べ、自分の言葉として使えるようにしよう。 2 話題や題材に応じて情報を収集し、分析して、自分の考えを深めよう。 3 自分の考えていることを文章や言葉で正確に表現できるようにしよう。	

評価 規 準	知識・技能	言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解し、表現の特色について理解を深め、適切な表現や言葉遣いを使い分けられているか。
	思考・判断・表現	自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現の仕方が工夫できているか。
	主体的に学習に取り組む態度	正しい表記や語彙を豊かにすることについて積極的に取り組もうとしているか。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○
評 価 方 法	学習への取組をⅠ【知識・技能】、Ⅱ【思考力・判断力・表現力等】、Ⅲ【主体的に学習に取り組む態度】の三観点で評価をする。評価の対象と観点は以下の通り。 ○ 定期考査 … Ⅰ・Ⅱ の観点 ○ ノート内容 … Ⅱ・Ⅲ の観点 ○ 授業成果物（レポート、感想文、提出物等） … Ⅱ・Ⅲ の観点 ○ 授業態度（真面目な態度、積極的な取組） … Ⅲ の観点				

公 民

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
公共	2単位	農業科（畜産科）	2年

教 科 書	高等学校 公共（第一学習社）	副 教 材	クローズアップ 公共（第一学習社）
-------	----------------	-------	-------------------

科目の目標	・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。 ・社会の諸課題の解決に向けて、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第1編 公共の扉 1 公共的な空間をつくる私たち 2 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 3 公共的な空間における基本原理 第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 1 法的な主体となる私たち	・公共的な空間をつくる私たちについて、現代の諸課題を主体的に解決しようと考察する。
2 学 期	2 政治的な主体となる私たち 3 経済的な主体となる私たち	・よりよい社会は、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することで築かれるものであることについて理解する。
3 学 期	3 経済的な主体となる私たち 第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	・国際協力のあり方、国際協調の重要性から、日本の役割について自分自身の問題として、主体的に解決しようとする。
備 考 (学習のポイント)	1 教科書をしっかり読もう。 2 教科書の図版（グラフ・表・写真・絵）をよく見よう。 3 新聞・ニュースなどで、世の中の動きや問題点を知ろう。 4 常に「なぜ」という意識を持ち、自分で調べたり、考えたりする習慣を身に付けよう。	

評価規準	知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。				
	思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。				
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。				
定期考査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末	
実施予定	○	○	○	○	○	
評価方法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ 授業態度（意欲的な態度、積極的な発表） ○ ノート・課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題） ○ 班学習での取組（話し合いの態度、積極的な発表）					

数 学

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
数学Ⅰ	2単位	農業科（畜産科）	2年

教 科 書	新 高校の数学Ⅰ（数研出版）	副 教 材	ポイントノート数学Ⅰ（数研出版）
-------	----------------	-------	------------------

科目の目標	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第3章 図形と計量 三角比 三角形への応用	・ 直角三角形の辺の比を用いて、さまざまな図形の問題を解く。
2 学 期	第4章 集合と命題	・ 物事を理論的に考え、問題を解いたり、証明したりする。
3 学 期	第5章 データの分析	・ 身の回りのデータを分析するためのまとめ方や考察の仕方を学ぶ。
備 考 (学習のポイント)	1 第3章は、三角定規の2種類の直角三角形の辺の比を覚えておく必要があります。角の大きさと各辺の比を正確に覚えておきましょう。 2 第5章は、データを分析する上で扱う数値について学習します。そのためには、用語の意味や計算方法を覚える必要があります。	

評 価 規 準	知識・技能	基本的な考え方、原理、法則、用語、記号の意味を理解し、事象を数学的に解釈し、処理することができている。
	思考・判断・表現	式、図、表、グラフ等を用いて、様々な課題を数学的に捉え、数学的論拠に基づいて事象を的確に判断・表現し、考察している。
	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し、問題解決において積極的に数学を活用している。

定 期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期検査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ ノート提出（予習・復習及び整理状況の確認） ○ 授業態度（まじめな態度、積極的な発表） ○ 小テスト（単元毎の小テストなど） ○ 課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）
---------	---

理 科

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
生物基礎	2単位	農業科（畜産科）	2年

教 科 書	高等学校 新生物基礎（第一学習社）	副 教 材	ネオパルノート生物基礎
-------	-------------------	-------	-------------

科目の目標	生物とそれを取りまく環境に対する関心を高め、その中に問題を見出し意欲的に探究する活動を通して、規則性を発見したり課題を解決したりする方法を習得させる。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第1章 生物の特徴 1節 生物にみられる共通性 2節 生物とエネルギー 第2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA 2節 遺伝情報とタンパク質の合成	・生物の多様性と共通性を理解する。 ・遺伝子とその働きを理解する。
2 学 期	第3章 ヒトのからだの調節 1節 からだの調節と情報の伝達 2節 免疫 第4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移	・体内環境と恒常性について理解する。 ・植生と遷移について理解する。
3 学 期	2節 生態系とその保全	・気候とバイオームについて学ぶ。 ・生態系の物質循環、バランスと保全について学ぶ。
備 考 (学習のポイント)	1 生物の特徴を知り、どのような進化が起こったのか理解しよう。 2 遺伝子の働きや体内環境を維持するしくみを学び、自分のからだの成り立ちや現象を理解しよう。 3 言葉や現象についてよく理解し、文章で正確に表現できるようにしよう。 4 表や図を見て、表現や理解ができるようにしよう。	

評 価 規 準	知識・技術	・生物の内容を理解し、正しい知識で生命現象を説明することができるか。 ・顕微鏡観察や実験を、正しい手順で素早く行うことができるか。
	思考・判断・表現	・科学的知識のもとに、現象理解を行い表現することができるか。
	主体的に学習に取り組む態度	・主体的に生物に興味を持ち、内容の理解に努めているか。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学 年 末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度、実験態度等を総合的に評価する。 ○ ノート提出（予習・復習及び整理状況の確認） ○ 授業態度（まじめな態度、積極的な発表、ペアワーク・グループワークの態度） ○ 小テスト（確認テストなど） ○ 課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）
---------	--

保健体育

科目名	単位数	学 科	学 年
体 育	2単位	農業科（畜産科）	2年

教科書	新高等保健体育（大修館書店）	副教材	最新スポーツルール24（大修館書店）
-----	----------------	-----	--------------------

科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	体づくり運動（通年）集団行動 新体力テスト、陸上競技 球技Ⅰ〔個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法〕 【男子】【女子】（バレーボール）（ソフトボール） 体育理論（人間にとって「動く」とは何か、スポーツの始まりと変換）	・ 自己の体力や生活にに応じて取り組み、実生活に役立てる。 ・ 自己に適したペースを維持して走る。
2 学 期	球技Ⅱ〔個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法〕 【男子】【女子】（サッカー・バスケットボール） 陸上競技〔中・長距離走〕 校内マラソン大会【男子】8km【女子】4km 体育理論（スポーツ文化の楽しみ方、オリンピックと国際理解）	・ 作戦や状況に応じた技能や仲間と連携してゲームが展開できるようにする。
3 学 期	球技Ⅲ〔個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法〕 【男子】【女子】（バスケットボール・バレーボール） 体育理論（スポーツの経済、ドーピングとスポーツ倫理）	・ スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について理解できるようにする。
備 考 （ 学 習 の ポ イ ン ト ）	1 自らの特性を生かしたり、伸ばしたりする上で、能力等に応じて運動を選び、その運動を得意にしていくなどして生涯スポーツの基礎づくりをしよう。 2 集団としての行動を秩序正しく、能率的に行えるようにしよう。（5分前行動） 3 互いに協力して自己責任を果たそう。	

評 価 規 準	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための倫理について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。
	主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定					

評 価 方 法	授業態度、運動の技能、体育理論の理解度等を総合的に評価する。 ○ 授業態度・意欲（授業の参加状況、意欲的でまじめな態度） ○ 運動の技能（各種運動の技能の習熟度、審判法の理解度） ○ 体育理論の理解度（理解度の確認テスト）
---------	--

保健体育

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
保 健	1 単位	農業科（畜産科）	2 年

教 科 書	新高等保健体育（大修館）	副 教 材	新高等保健体育ノート（大修館）
-------	--------------	-------	-----------------

科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学期	3 単元 生涯を通じる健康 思春期と健康 性意識の変化と性行動の選択 結婚生活と健康 妊娠・出産と健康 家族計画 加齢と健康 高齢社会に対応した取り組み	・生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理や環境づくりについて理解を深める。
2 学期	3 単元 生涯を通じる健康 働くことと健康 労働災害の防止 働く人の健康づくり 4 単元 健康を支える環境づくり 大気汚染と健康 水質汚濁、土壌汚染と健康 健康被害を防ぐための環境対策	・生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理や環境づくりについて理解を深める。 ・環境汚染の防止及び改善策の必要性を理解する。
3 学期	4 単元 環境衛生に関わる活動 食品の安全と健康 食品の安全性を確保する取り組み 保険制度とその活用 医療品の制度とその活用 様々な保健活動や対策 誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	・環境と食品の安全性、労働災害防止のための健康管理や安全管理について理解する。 ・保健・医療制度や機関の適切な活用、医薬品の正しい使用方法を理解する。
備 考 （ 学 習 の ポ イ ン ト ）	1 心身の健康課題や健康に対する考え方の変化に対応するため、新聞・ニュース等に関心を持ち、よく見よう。 2 教科書・ノートは忘れず持参し、板書等はノートに必ず取ろう。 3 提出物は期限を守り、確実に提出しよう。	

評価 規 準	知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	健康について自他の社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的に応じて他者に伝えている。				
	主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。				
定期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末	
実施 予 定		○		○	○	
評価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ノート提出（予習・復習及び整理状況の確認） ○授業態度（まじめな態度、積極的な発表） ○課題・レポート提出（日常の課題及び長期休業中の課題）					

芸 術

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
美術 I	2単位	農業科 (畜産科)	2年

教 科 書	美術 1 (光村図書)	副 教 材	
-------	-------------	-------	--

科目の目標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	デザイン 使うためのデザイン 彫刻 手で握りやすい形の追求 木材の加工と仕上げ デザイン 紙による多面体の制作	・身の回りの道具の機能性に気付く。 ・自分が持ちやすい、使い易い形の追求、制作をする。
2 学 期	絵画 色彩学習 デザイン 色の属性についての理解 着彩方法、混色方法について 粘土で原型を作る デザイン 連続模様の制作 繰り返しのデザイン 消しゴムはんこの制作	・色彩についての理解を深める。 ・立体的に表現するおもしろさを味わう。 ・繰り返し模様のパターンを研究する。
3 学 期	デザイン パッケージデザインについて 工芸 ノートの制作 書くためのデザインとは 材料 道具の理解と制作 デザイン 書体、マークの研究	・問題解決の回答としてのデザインの意義を理解する。 ・オリジナルのマークを考える。 ・フォントについて学習する。
備 考 (学習のポイント)	1 様々な技法を習得し、思い通りに表現できるようにしよう。 2 自分の考えているイメージを形にしよう。 3 様々な作品のよさを発見し言葉にして伝えよう。	

評 価 規 準	知識・技能	授業の内容を習得し、芸術文化への理解を深めている。鑑賞を通して感性を高め表現することができる。
	思考・判断・表現	作品の主題を理解し、アイデアやイメージを膨らませ、表現の方法を工夫することができる。
	主体的に学習に取り組む態度	美術に関心を持ち、積極的に授業に取り組み、意欲的に表現し鑑賞することができる。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定					

評 価 方 法	学習への取組をⅠ【知識・技能】、Ⅱ【思考力・判断力・表現力等】、Ⅲ【主体的に学習に取り組む態度】の三観点で評価をする。評価の対象と観点は以下のとおり。 作品、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○授業プリントの提出 (授業内容の理解の確認) … Ⅰ・Ⅱ の観点 ○授業態度 (真面目な態度、積極的な発表など) … Ⅲ の観点 ○課題提出 (日常の課題及び長期休業中の課題) … Ⅱ・Ⅲ の観点 ○鑑賞プリントの提出 … Ⅱ・Ⅲ の観点
---------	--

芸 術

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
音楽Ⅰ	2単位	普通科（Ⅱ型）	2年

教科書	音楽Ⅰ Tutti plus（教育出版）	副教材	
-----	----------------------	-----	--

科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	歌唱表現 イタリア歌曲 器楽表現 リコーダー ボディパーカッション 鑑 賞 歌劇	・Caro mio ben を正しい発音で歌う。 ・いつも何度でもを二重奏する。 ・体を使って様々な音色を出して、アンサンブルをする。 ・歌劇の魅力を理解する。
2 学 期	器楽表現 ヴァイオリン 創作表現 物語と音楽の関わり 鑑 賞 変奏曲 蘭陵王	・ヴァイオリンで簡単な曲を演奏する。 ・物語の情景に合ったBGMを創作する。 ・24の奇想曲を鑑賞して、ヴィルトゥオーソの偉大さについて理解する。 ・雅楽の歴史や仕組みについて理解する。
3 学 期	器楽表現 ギター 鑑 賞 世界の声の音楽、楽器の音楽	・難しいコードを用いてコード奏をする。 ・民族音楽の特徴を理解する。
備 考 (学習のポイント)	1 表現に必要な技能を身に付けるために、根気強く練習に取り組もう。 2 他者と積極的に意見を共有したりアンサンブルしたりしよう。 3 日常生活においても、様々な音楽と親しもう。	

評 価 規 準	知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりや音楽の多様性について理解し、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫したり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりすることができる。
	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を身に付けている。

定 期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定					

評 価 方 法	実技テストや小テスト、ワークシートの記述内容、授業態度などを総合的に評価する。 ○実技テスト ○小テスト ○ワークシートの記述内容 ○授業態度（積極性、練習への取り組み等）
---------	--

外国語（英語）

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
英語コミュニケーションⅠ	2単位	農業科（畜産科）	2年

教科書	COMET English Communication I (数研出版)	副教材	Enjoy! ドリルで英文法
-----	---	-----	----------------

科目の目標	英語の音声や語彙などの理解を深め、実際のコミュニケーションで適切に活用できる技能を身に付ける。日常的话题等について、英語で要点や話し手の意図などを理解したり、表現したりする力を養う。英語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的・自律的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	Lesson 6 Convenience Stores: Key to their success Lesson 7 High School Aquarium	・that 節 ・現在完了 (完了・経験・継続)
2 学 期	Lesson 8 Smart Farming Lesson 9 Food Waste	・受け身 ・比較
3 学 期	Lesson 10 William and His Windmill Reading 02 日本初のファシリティドック、ベイリーの物語	・関係代名詞 (who/which/that)
備 考 (学習のポイント)	1 積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲をもって取り組もう。 2 英語が使えるようになるために、基本的な単語、文法をしっかり習得しよう。 3 基礎・基本の定着を図るため、必ず予習をして授業に臨み、学習に集中しよう。 4 授業中は、説明をよく聞き、ノートは必ず取ろう。	

評価 規 準	知識・技能	英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题等について、その内容を捉えたり伝えたりする技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题等について、必要な情報等を捉えたり、伝えたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を使おうとしている。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、小テスト、パフォーマンステスト、ノート等の提出物、授業態度等を総合的に評価する。 ○ ノート提出（予習・復習及び整理状況の確認） ○ 授業態度（真面目な態度、積極的な発表、ペアワーク、グループワーク） ○ 課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題） ○ パフォーマンステスト（英語で伝えようとする姿勢）
---------	--

家 庭

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
家庭総合	2単位	農業科（畜産科）	2年

教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)	副教材	家庭科ノート (愛媛県高等学校家庭科教育研究会)
-----	-------------------------	-----	-----------------------------

科目の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第6章 食生活をつくる (実習) 調理実習 ホームプロジェクト (夏休み課題)	・栄養、調理等について学び、食生活を営む上で必要な知識と技術を身に付ける。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。
2 学 期	ホームプロジェクト (発表会) 第6章 食生活をつくる (実習) 調理実習 第9章 経済生活を営む 第5章 共に生き、共に支える	・栄養、調理等について学び、食生活を営む上で必要な知識と技術を身に付ける。 ・生活における経済と社会のかかわりについて理解を深める。 ・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。
3 学 期	第9章 経済生活を営む 第11章 これからの生活を創造する	・生活における経済の計画、消費者問題や消費者の権利と責任について理解し、消費者としての適切な意思決定に基づいて、責任ある行動を学ぶ。 ・生涯を見通した自己の生活について考えることができる。
備 考 (学習のポイント)	1 将来の生活設計を考え、今の家庭生活に興味を持とう。 2 家族の一員としての役割を果たすために、家族との会話を大切にしよう。 3 基礎的・基本的な知識と技術を定着させるために、積極的に家事を手伝おう。 4 実践力を養うために、検定やホームプロジェクト、家庭クラブ活動に参加しよう。	

評価 規 準	知識・技能	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。
	思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

定期考査 実 施 予 定	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
		○		○	○

評価方法	定期考査、提出物（課題、プリント）、授業態度等を総合的に評価する。 ○ プリント提出（整理状況の確認） ○ 授業態度（まじめな態度、積極的な発表） ○ 小テスト（単元ごとの確認テストなど） ○ 課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）
------	--

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
生物活用	2単位	農業科（畜産科）	2年

教 科 書	生物活用（実教出版）	副 教 材	
-------	------------	-------	--

科目の目標	(1) 生物活用について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 生物活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 生物活用について、生物の特性を活用し生活の質の向上につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 生物活用の役割 (1)生物活用の意義と役割 (2)植物・園芸と人間生活 2 園芸作物の栽培と活用 (1)草花の栽培と活用 (2)野菜・ハーブの栽培と活用	・生物活用の意義など基礎的・基本的な知識を身に付ける。
2 学 期	3 動物の飼育と活用 (1)動物と人間生活 (2)イヌの飼育と活用 (3)ネコの飼育と活用 (4)その他の動物の飼育と活用①ウサギ ②ニワトリ	・動物飼育と活用の基礎的・基本的な知識を身に付ける。 ・ウサギ、ニワトリの管理を通して、動物の管理に必要な基本的な知識と技術を身に付ける。
3 学 期	4 ウマの飼育と活用 (1)ウマの種類 (2)活用と特徴 (3)行動の特徴と飼育	・ポニーの管理を通して、動物の管理に必要な基本的な知識と技術を身に付ける。
備 考 (学習のポイント)	1 実習を通して、動物の適切な管理方法を身に付けよう。 2 服装は実習服を着用して行います。服装の不備はけがにつながるので、きちんとして。 3 農場での記録もありますので筆記用具と野帳を必ず準備しよう。 4 動物管理実習においては危険を伴う場合もありますので、先生の説明をよく聞き、理解した上で行動しよう。	

評 価 規 準	知識・技術	・生物活用に関する基礎的な知識を身に付けることができたか。 ・飼育および栽培の、基本的な技術・技能が身に付いたか。
	思考・判断・表現	・実習、授業において適切な判断や工夫ができたか。
	主体的に学習に取り組む態度	・学習内容に興味を示し、積極的な発問や実習の態度が見られるか。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、ノート提出、実習報告書提出、授業態度等で総合的に評価する。 ○ノートの提出（整理状況の確認） ○授業態度・実習態度（まじめな態度、積極的な姿勢） ○課題提出（小テスト及び長期休業中の課題）
---------	---

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
畜産	4単位	農業科（畜産科）	2年

教 科 書	畜産（実教出版）	副 教 材	
-------	----------	-------	--

科目の目標	（１）家畜の飼育と畜産経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）家畜の飼育と畜産経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）家畜の飼育と畜産経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
-------	---

	学 習 項 目		学 習 の ね ら い
1 学 期	（養豚） 1 豚の特性 - 豚の習性と行動 - 生産物の特徴と利用 2 豚の品種と選び方 - 豚の一生 - 豚の起源と養豚の歩み - 改良目標と審査登録 - 排糞、排尿の習性と豚舎	（酪農） 1 乳牛の飼養管理 - 泌乳期の管理・搾乳実習 2 家畜の消化器官と消化吸収 - 反すう家畜の消化・吸収 - 飼料の特性と給与 3 乳牛の繁殖 - 発情の兆候と行動・分娩 - 人工授精	- 豚の繁殖や肉豚の育成について基本的な知識を身に付ける。 - 飼料調製や飼料計算について基本的な知識を身に付ける。
2 学 期	3 養豚の施設・設備 - 肉豚の飼育形態と豚舎 - 母豚の飼育形態と豚舎 4 豚の繁殖 - 子豚の生理と飼育技術 - 母乳による飼育	4 酪農の施設・設備とその利用 5 乳牛の飼養管理 - 乳牛の発育段階とサイクル 6 乳牛の病気と予防衛生 - 口蹄疫・牛白血病	- 豚の飼育形態や繁殖について基本的な知識を身に付ける。 - 乳牛の飼養管理、牛乳生産、予防衛生について基本的な知識を身に付ける。
3 学 期	- 発育段階別管理の要点 - 肉豚の飼育管理 - 発育と飼料・飼料給与 - 群編成・飼育環境と管理 - 近代養豚の歩み	7 肉牛の飼育 - 肉牛の特性・品種 - 肉質と飼養管理	- 発育段階や飼養管理、給与について基本的な知識を身に付ける。 - 予防衛生と肉牛の飼育について基本的な知識を身に付ける。
備 考 (学習ポイント)	1 乳牛や豚など家畜の飼育の方法を学ぶ科目です。 2 家畜と直接ふれあって習性や飼育方法を学びましょう。 3 繁殖をさせなければ乳・肉・卵などの生産物は出来ません。繁殖についてしっかり学びましょう。また、生産物を有利に販売する方法についても学び、経営者能力を身に付けましょう。		

評 準 規	知識・技術	・家畜の飼育と畜産経営に必要な資質・能力を身に付けることができたか。
	思考・判断・表現	・授業・実習を通して身に付けた技能を応用し、適切な判断ができたか。
	主体的に学習に取り組む態度	・提出物の内容や授業中の発言等、意欲的に取り組むことができたか。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度等で総合的に評価する。 ○ノートの提出（整理状況の確認） ○授業態度・実習態度（まじめな態度、積極的な姿勢） ○課題提出（小テスト及び長期休業中の課題）
---------	---

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
総合実習	3単位	農業科（畜産科）	2年

教 科 書	副 教 材
-------	-------

科目の目標	(1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業の総合的な経営や管理に繋がる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 専攻別実習 ・ 大家畜 乳牛の体の特徴や日常の管理方法について ・ 中小家畜 豚や鶏の体の特徴や日常の管理方法について ・ 栽培 土作りや野菜・草花の日常の管理方法について ※各専攻班でプロジェクト活動の実施	・ 各専攻班の管理ができる。 ・ プロジェクト活動に意欲的に取り組むことができる。
2 学 期	2 専攻別実習 ・ 大家畜 飼料作物の栽培と調整について ・ 中小家畜 豚・鶏の繁殖・育成等の飼養管理方法について ・ 栽培 タマネギ苗や草花の栽培管理方法について ※各専攻班でプロジェクト活動のまとめ、発表	・ 各専攻班の管理ができる。 ・ プロジェクト活動のまとめ発表ができる。
3 学 期	3 専攻別実習 ・ 大家畜 乳牛の毛刈りや調教について ・ 中小家畜 ポニー等の小動物の管理方法について ・ 栽培 野菜苗の栽培と管理方法について ※各専攻班でプロジェクト活動レポートの作成	・ 各専攻班の管理ができる。 ・ プロジェクト活動の評価、課題を見つけることができる。
備 考 (学習のポイント)	1 総合実習は動植物を扱う科目です。適切な管理方法を身に付けよう。 2 服装は実習服を着用して行います。服装の不備は怪我につながるのできちんとしよう。 3 農場での記録もありますので筆記用具と野帳を必ず準備しよう。 4 危険を伴う実習もありますので先生の説明をよく聞き、機器の使い方を理解した上で、実習に取り組もう。 5 プロジェクト活動に積極的に取組に取り組もう。 * 1単位は放課後、土日、祝祭日、長期休業中に実施する。	

評価の観点	知識・技術	専門的な知識を身に付け、安全に効率よく実習できる技能を身に付けたか。				
	思考・判断・表現	農業実習において基礎的な知識を身に付け、適切な判断ができたか。				
	主体的に学習に取り組む態度	実習に取り組む態度や報告書の内容など、意欲的に実習に取り組んでいるか。				
定期考査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末	
実施予定		○		○	○	
評価方法	定期考査、実習報告書、行事報告書、課題提出、出席状況等を総合的に評価する。					

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
農業経営	2単位	農業科（畜産科）	2年

教 科 書	農業経営（実教出版）	副 教 材	
-------	------------	-------	--

科目の目標	（１）農業経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）農業経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に課題を解決する力を養う。 （３）農業経営のマネジメントやマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	会計によるマネジメント ① 会計と簿記 ② 資産・負債・純資産と貸借対照表 ③ 収益・費用と損益計算書 ④ 取引と勘定	・ 簿記の基礎を身に付ける。
2 学 期	⑤ 仕訳と転記 ⑥ 試算表 ⑦ 決算	・ 簿記の記帳方法を身に付ける。
3 学 期	⑧ 財務諸表分析 ⑨ 原価計算 ⑩ 損益分岐分析 ⑪ 損益分岐図表	・ 経営診断方法及び改善方法を身に付ける。
備 考 (学習のポイント)	「農業経営」では、わが国の農業の現状を知り、農業経営の実態と特徴を理解することが大切です。経営実態を正確に知るためには、簿記の記帳の仕方を理解する必要があります。	

評価基準	知識・技術	・ 農業経営に興味を持ち、内容の理解に努めているか。				
	思考・判断・表現	・ 簿記の原理を理解し、経営に生かすことができたか。				
	主体的に学習に取り組む態度	・ 提出物の内容や授業中の発言等、意欲的に取り組んでいるか。				
定期考査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末	
実施予定	○	○	○	○	○	
評価方法	定期考査・提出物・授業態度・出席状況等を総合的に評価する。 ○ノートの提出（整理状況の確認） ○授業態度（まじめな態度、積極的な発表） ○課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）					

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
農業と情報	2単位	農業科（畜産科）	2年

教 科 書	農業と情報（実教出版）	副 教 材	Excel で学ぶ全商情報処理検定テキスト3級
-------	-------------	-------	-------------------------

科目の目標	(1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 表計算ソフトウェアの利用	・表計算ソフトウェアについての知識や技術を身に付ける。
2 学 期	2 データベースソフトウェアの利用 3 図形処理ソフトウェアの利用	・データベース及び図形処理ソフトウェアについての知識や技術を身に付ける。
3 学 期	4 プレゼンテーションソフトの利用	・プレゼンテーションソフトウェアについての知識や技術を身に付ける。
備 考 (学習のポイント)	1 「農業情報処理」は、これからの情報化社会を生き抜いていくために必要不可欠な科目です。 2 知識のみでは情報活用はできません。1年次の学習をもとに実習をとおして各ソフトウェアについてより理解を深め、応用力と実践力を身に付けていくことが大切です。	

評 価 規 準	知識・技術	・農業情報処理に関する基礎力を身に付けることができたか。
	思考・判断・表現	・農業に関するデータ処理において適切な思考や判断ができたか。
	主体的に学習に取り組む態度	・情報処理に興味を持ち、意欲的に学習に取り組んでいるか。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査・提出物・授業態度・実習態度・出席状況等を総合的に評価する。 ○ノートの提出（整理状況の確認） ○授業態度・実習態度（まじめな態度、積極的な発表） ○課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）
---------	--

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
野菜	2単位	農業科（畜産科）	2年

教 科 書	野菜（実教出版）	副 教 材	
-------	----------	-------	--

科目の目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、野菜の生産と経営に必要な資質・能力を育成する。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	- 野菜生産の役割と動向 - 野菜の生育特性と栽培環境の調節技術	- 野菜を分類し、多くの種類を体系的に理解させる。 - 消費者ニーズが多様化するなかで、品種改良や型・栽培技術の発展・改良、輸入野菜の増加などについても理解させる。
2 学 期	- 野菜の生育特性と栽培環境の調節技術 - 葉や花茎を利用する野菜の栽培	安全な野菜生産のために、多くの取り組みが必要であり、それが重要であることを理解させる。
3 学 期	- 葉や花茎を利用する野菜の栽培 - 根を利用する野菜の栽培 - 野菜の流通と経営改善	冷涼な気候を好み、高温で開花しやすいことを理解させ、季節によって産地が大きく異なる理由も考えさせる。
備 考 (学習のポイント)	1 実践的・体験的な学習が多く、実習を伴うため、実習服の着用が必要。 2 座学で学んだことを実習で実践し、栽培技術の基礎をしっかりと身に付ける。 3 新鮮・良質・安全な食料を供給するためには、どうすればよいかを考える。	

評 価 規 準	知識・技術	野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
	思考・判断・表現	野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
	主体的に学習に取り組む態度	野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

定 期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査・提出物・授業態度・実習態度・小テスト・出席状況等を総合的に評価する。 ○ノートの提出（整理状況の確認） ○授業態度・実習態度（まじめな態度、積極的な実習・発表） ○課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）
---------	---